

一 京都哲学会公開講演会記事

恒例の京都哲学会公開講演会は、平成十六年十一月三日（水）午後一時半から、京都大学文学部新館第三講義室において、左記のごとく行われた。

一、コミュニケーションと倫理学

京都大学大学院助教授 水谷 雅彦

一、近世日本絵画の熟成——日本の美意識構築に見る室町期の思想の影響 京都大学大学院教授 佐々木丞平

講演会は数多くの会員の方々の出席を得て盛会であった。また講演会終了後、京大会館において懇親会をもち、多数の会員が講演者と共に討論と歓談のシュンボンオンのひとときを過ごした。

二 外国人学者来訪講演会記事

平成十六年七月より、平成十六年十二月末までに、京都大学大学院文学研究科の旧哲学系諸研究室の主催のもとに行われた、外国人学者による講演会は次の通りである。（なおCOE関連で開催された講演会には含まない。）

Dr. Bernard Gert (Dartmouth College)

[Moral Arrogance and Moral Theories]

平成十六年九月二十四日 於京都大学文学部東館四階COE

E研究室

三 京都大学文学部（旧哲学系）卒業論文題目

——平成十六年三月——

哲学

井川友利子 『内的時間意識の現象学』における客観的時間の構成について

佐野 透 カント『純粹理性批判』における二つの感性形式

筈木 丈 ベルクソン『試論』における自我

門田 一郎 カント『純粹理性批判』におけるカテゴリー表の導出について

今村 正宏 ポパーの『科学的発見の論理』における境界設定の基準について

野沢 尚嗣 フッサール『イデーンI』における想像について

森川 卓也 『シーシュポスの神話』におけるカミュの実存主義解釈と不条理

西洋哲学史

浅川 真一 ライブニッツにおける存在判断の「根拠」について

新美 隼吾 牢獄のソクラテス—『クリトン』の議論を中心に—

森崎 恒平 『カルミデス』における知の知

日本哲学史

大濱 弘光 『懺悔道としての哲学』に見る親鸞の思想と現代の

浄土真宗の問題点

小谷 摩耶 人間の「非合理的」な行為と不安―三木清を手がかりに―

寺村 朋輝 清沢満之と浄土教の信心

高木 美奈 西谷啓治と科学の問題

倫理学

伊藤 千尋 少年事件報道における権利の調整とマスメディアの

自主規制

今川 和哉 フリーターに見る現代人の労働観とその問題点

中本 速 書籍再販制度の功罪

南 篤司 日本における情報格差とリテラシーについて

料治 弦太 スピノザにおける「力」の政治学

小松 淳 ドラッグ解放論

佐藤 岳詩 ヘアの批判的思考と普遍化可能性

キリスト教学

大久保 聡 「告白」に見られるアウグスティヌスの創造思想

美学美術史学

池松加代子 日本マンドリン音楽史

白田 桃子 庭園における空間の象徴的表現

小野晋太郎 ウイトゲンシュタインは美的体験をどのように位置

づけたか

小上 貴代 飛鳥時代の童子形仏

曾我麻美子 ショルジュ・パティユー異質性の誘惑―

高名 等 中枢を持たない知覚―ドゥルーズ「シネマ」による

イメージ

武田 宙也 言説における主体について

利根 有紀 俳優における心と体の関係

中尾 優衣 シーボルト妻子像螺細合子について

棟方亜矢子 江戸文化と遊女絵の変遷

秋山 由衣 浄瑠璃における前表の表現

池島幸太郎 酒買小僧型陶製狸の成立と変遷に見る日本人の

「かわいらしむ」

黒木 陽子 女性の身体で笑いを生み出すということについて

筒井 忠仁 伝岩佐又兵衛筆「豊国祭礼図屏風」について

加藤 亮史 世阿弥、「風姿花伝」に見る舞台と観客の共感の形

中国哲学史

對馬 仁 牟子について

仏教学

熊谷 誠慈 Virahavyavartani の研究

高橋 尚子 現代日本における原始仏教（テラワダ仏教）活

動の展開―日本テラワダ仏教協会を中心として―

滝澤 耕平 Patna Dhammapada 研究

安田 章紀 Arya-Mañjuśrīnāmasangīti の研究

岸野 亮示 律蔵に見られる出家者とその「家族」の関係

心理学

上垣 恵一 色弁別実験におけるツバイとヒトの比較

西窪恭未子 乳児における空間認知発達について

鳥山 理恵 文化依存的知覚様式の発達

中島 寛朗 ラットとヒトにおけるアナロジカルな関係の認識

中村 哲之 ヒトとラットにおける聴覚イメージ操作の比較

溝口 るい 視線の方向が表情の認知に与える影響

宮田 裕光 迷路課題を用いた、メンタル・リハーサルの比較認知科学的的研究

辻 晶子 乳児による心的状態の帰属に関する研究

栗本 達児 図式顔の視覚的探索における脅威の優位性

### 社会学

浅川 智子 電子メディアを通じての男女の人間関係構築の一考察

一柳慎太郎 教室空間をめぐる正統的ディスクールの変遷—テレビドラマにおける教育的言説の分析を通して—

尾澤 隆浩 日本におけるサッカーについての社会学的考察

川原 吉貴 『サザエさん』の社会学

木村 至聖 「信仰」と「宗教」のあいだ

小久保憲太郎 「合わせ鏡としてのJ-POP」の社会学

後藤 宏之 インターネットの個人ホームページについての社会学

### 学的考察

佐久間 晋 現代日本人の公共交通機関における行動

菅原 祥 ジェンダーの文化社会学

橋本 昌子 祭を通して考える地域のつながり—三重県熊野市の事例から—

### 事例から

林 正樹 ボランティアの社会学

松沢 陽子 ジェンダー／セックスの生物学的基盤をめぐる—文化決定論の再検討—

松村 望 ネット時代における地方紙の役割、京都新聞を事例に

森川 潤 過疎山村における人口移動の社会学的考察

井波 和夫 学生主体のまちづくりの可能性

岡 尚人 現代消費社会におけるポピュラー音楽

賀田ひとみ 摂食障害についての社会学的考察

田中俊二郎 代議士後援会の社会学的研究

林 慎一 「相互選択型社会」における就職活動についての一考察

### 科学哲学科学史

#### 科学哲学科学史

桂 省吾 第二次世界大戦中のアメリカ合衆国での原子爆弾の開発について

四 京都大学大学院文学研究科(旧哲学系)博士前期(修士)課程修了論文題目—平成十六年三月—

### 哲学

#### 哲学

齊藤 万文 カントの認識論におけるカテゴリーの起源について

畑山 尚史 ジェイムズの根本的経験論における経験の連続性について

山倉 裕介 メルロー・ポンティエの知覚論の射程

榎原 千尋 後期ウイットゲンシュタインの真理論

紀 啓子 ショーペンハウアーの「意志」について

西洋哲学史

- 辻内 宣博 アウグスティヌス『告白』十一巻における時間論に  
ついて—*affectio*と*disentio animi*—
- 浅岡 弥生 ブラトン『バイドン』における「魂の浄化」再考
- 香西 知器 カントにおける無限の問題
- 木戸川啓多 『饗宴』におけるソクラテスのエロース論
- 吉沢 一也 ブラトン『クリトン』の議論構造再考—ロゴスの行  
方—

日本哲学史

熊谷征一郎 西田の他者論

宗教学

- 橋詰 圭一 マルセルの意志論
- 長谷川琢哉 リクールにおける自由の問題
- 山内 誠 ポール・リクールの「意志の哲学」における悪の問  
題について

キリスト教学

- 岩野 祐介 近代日本の批判者として見た内村鑑三—再臨運動へ  
と向かうそのキリスト教思想と個人主義批判を中心  
に—
- 鬼頭 葉子 後期ティリッヒにおける歴史をめぐる問題

美学美術史学

- 小宮 夏紀 ゴットフリート・ベームの芸術思想
- 長島 昌代 ベンヤミンの遊びの概念とその方法について
- 呉 永三 一八世紀、江戸と朝鮮における真景の視覚性
- 梁 禎允 奇跡のワイン—ヤン・ステーン作『カナの婚宴』を  
めぐって—
- 杉山 卓史 カントの趣味論における共通感の概念について
- 土生 和彦 円空の造像活動とその作品

中国哲学史

- 蓋 暁星 周作人の文芸思想—日本留学から「漢奸」になるま  
での軌跡—
- 石 立善 朱子の個体論

仏教学

- 桐山 大幹 *Bhavanakrama* 研究
- TUDKEAO CHANWIT 初期仏教における弥勒仏伝説の展開  
について—*Diyavadana* 第3章 *Maitreyavadana*  
新再校訂を中心として—

心理学

- 浅水 優子 幼児におけるもの見かけと本当の区別
- 大塚 結喜 ワーキングメモリの注意制御を支える神経基盤に対  
する加齢の影響
- 木原 健 視覚刺激呈示時間手がかりが時間的注意に及ぼす研  
究

- 高橋 真 空間位置弁別課題を用いた推移的反応におけるラッ

トとツバイの比較研究

廣瀬 信之 オブジェクト置き換えマスキングにおける非対称性

堤 清香 空間的注意の移動方向の観点からのアプローチ  
— 霊長類における物理的・社会的認知の生態学的基礎

社会学

加藤 源太 救急医療の役割についての社会学的研究

丸山 里美 ホームレスとジェンダーの社会学

和久井祥平 芸術大学における若者のライフコース・イメージの  
形成過程

黄 子育 植民地都市の社会運動をめぐる住民意識の社会学的  
研究

TOPPIS, CARLY GAYE 日本人高齢者とライフデザインの観  
光社会学的考察

江南 健志 過疎化高齢化社会における林業に関する地域社会学  
的考察

齊藤 初恵 摂食障害者の語りについての社会学的考察

瀬戸 悠子 自然保護の論理についての環境社会学的研究

渡辺 毅 戦後日本のクルマ社会に関する社会学的研究

脇坂 伸夫 病気カテゴリーの構築に関する社会学的研究

五 京都大学大学院文学研究科(旧哲学系) 博士後期課

程学修者氏名——平成十六年三月——

哲学 三宅岳史

西洋哲学史 早瀬篤

日本哲学史 杉本耕一

倫理学 神埼宣次 佐々木拓 鈴木真

宗教学 筒井史緒 辻虎志

キリスト教 近藤剛 佐藤啓介

美学美術史 謝振發 深谷訓子

中国哲学史 伊藤円

仏教学 BAYER ACHIM UWE

心理学 桑畑裕子 葭田貴子

社会学 菊地夏野 小島剛 石田裕規 福浦一男

科学哲学科学史 瀬戸口明久